

**わたしたちの霊的な経験にしたがって、  
新しい契約の内容を経験し、享受して、神のエコノミーを完成する**  
聖書：エレミヤ 31:31-34．ヘブル 8:8-12．ローマ 8:2, 28-29．12:1-2

- I. エレミヤ書が新しい契約に関して予言しているという事実に基づくと、エレミヤ書は旧約の書でもあり、また新約の書でもあると考えることができます。わたしたちは、新しい契約の内容を見て、それを用いる必要があります。新しい契約の内容は、神がわたしたちに与える遺贈です——エレミヤ 31:31-34．ヘブル 8:8-12：
- A. 新しい契約において、四つの祝福が約束されています：
1. わたしたちの不義をなだめ、わたしたちの罪を忘れる(赦す)こと——ヘブル 8:12。
  2. 神聖な命をわたしたちの中に分け与えることによって、命の律法(法則)を分け与えること——ヘブル 8:10 前半。
  3. 神をわたしたちの神として得て、わたしたちが神の民になるという特権を持つこと——ヘブル 8:10 後半。
  4. 命の機能を持ち、わたしたちが神を内側の命の方法で知ることができるようにすること——ヘブル 8:11。
- B. 罪の赦しは神の目的に到達するための手続きにすぎないので、聖書はここで罪の赦しを最後に置いています。しかしながら、わたしたちの霊的な経験によれば、わたしたちはまず、赦しから来る清めを得ます。その後、わたしたちは神を命の法則として享受して、命の法則の中で神の民となり、内側の方法で神に対するさらに深い認識を持ちます——参照、ヘブル 8:12。
- II. 「わたしは彼らの不義に対してなだめとなり、もはや彼らの罪を決して思い出さない」——ヘブル 8:12．エレミヤ 31:34 後半：
- A. キリストはわたしたちの罪のためになだめをなして、神の義をなだめ、それによって神の義の要求を満たして、わたしたちを神と和解させました——ヘブル 2:17。
- B. キリストの尊くすべてに効力のある血は、わたしたちのすべての問題を解決します。それによって、わたしたちは神との交わりの中に絶えずとどまり、絶えず神の有機的な救いを享受することができます——Iヨハネ 1:7-9．2:1-2：
1. 神の御前に、主の贖う血は、一度で永遠にわたしたちを清めたのであって(ヘブル 9:12, 14)、その清めの効果は繰り返される必要はありません。

2. しかしながら、わたしたちが神と交わって自分の良心が神聖な光によって照らされるときはいつでも、わたしたちは自分の良心において、主の尊い血の恒常的な清めを即時的に適用することを何度も必要とします。
  3. いったん神がわたしたちを赦すなら、神はご自身の記憶からわたしたちの罪を消し去り、もはやそれらを思い出しません。罪の赦しの意味は、神の御前でわたしたちに対する罪の訴えを取り除き、わたしたちを神の義の刑罰から救い出すことです——ヨハネ 5:24 :
    - a. 神はわたしたちの罪を赦すとき、わたしたちが犯した罪をわたしたちから離れさせます——詩 103:12. レビ 16:7-10, 15-22。
    - b. 神がわたしたちの罪を赦した結果は、神との回復された交わりの中で、わたしたちが神を畏れ、神を愛することです——詩 130:4. ルカ 7:47。
- C. キリストの尊い血は神を満足させ、信者たちを神に近づけ、敵のすべての訴えに打ち勝ちます(出 12:13. エペソ 2:13. I ペテロ 1:18-19. ヘブル 10:19-20, 22. 9:14. I ヨハネ 1:7, 9. 啓 12:10-11)。主の尊い血は、永遠の契約の血でもあります(マタイ 26:28. ヘブル 13:20)。この事は、レビ記第 16 章において大祭司が至聖所の中へと入った血によって予表されています :
1. わたしたちは契約の血によって、実際の至聖所(ヘブル 10:19-20)の中へと、すなわち、わたしたちの霊(エペソ 2:22. II テモテ 4:22)の中へと入って、神を享受し、神によって注入されることができます。
  2. 新約の啓示によれば、わたしたちは契約の血によって神の御前にもたらされるだけでなく、また神ご自身の中へともたらされます。贖い清める血は、わたしたちを神の中へともたらしめます !
  3. 契約の血はおもに、神がわたしたちの分け前となって、わたしたちに享受を得させるためです——参照、詩 27:4. 73:16-17, 25. I コリント 2:9. ヘブル 10:19-20。
  4. 最終的に、キリストの血は新しい契約の血として(マタイ 26:28. ルカ 22:20)、神の民を新しい契約のさらにまさった事の中へともたらし、神はこの契約の中で神の民に、新しい心、新しい霊、神の霊、内なる命の法則(神ご自身と彼の性質、命、属性、美德を指す)、神を知る命の能力を与えます(エレミヤ 31:33-34. エゼキエル 36:26-27. ヘブル 8:10-12)。
  5. 究極的に、新しい契約の血、すなわち永遠の契約の血は(ヘブル 13:20)、神の民が神に仕えることができるようにし(9:14)、また神の民を彼らの分け前(命の木また命の水)としての神の満ち満ちた享受の中へと、今も、

また永遠にわたって導き入れます(啓7:14, 17. 22:1-2, 14, 17)。

III. 「わたしはわたしの律法(複数[laws])を彼らの思いの中に分け与え、それを彼らの心に書き記す」——ヘブル8:10. エレミヤ31:33 前半：

- A. 新しい契約の中心、中心性は、内なる命の法則です。神聖な命の法則、命の霊の法則は(ローマ8:2)、神聖な命の自動的な原則、自然な力です。
- B. 三一の神は、肉体と成ること、十字架、復活、昇天という手順を経て、命の霊の法則となり、わたしたちの霊の中に、「科学的な」法則、自動的な原則としてインストールされ(組み込まれ)ました——ローマ8:2-3, 11, 34, 16。
- C. 神とわたしたちの関係は今日、命の法則に完全に基づいています。あらゆる命には法則があり、法則でさえあります。神の命は最高の命であり、この命の法則は最高の法則です——参照、箴30:19 前半、イザヤ40:30-31。
- D. ローマ第8章の主題は命の霊の法則です(ローマ8:2)。この章は、全聖書の焦点と宇宙の中心と考えることができます。こういうわけで、わたしたちはローマ第8章を経験しているなら、宇宙の中心にいるのです：
  1. 神は今わたしたちの中において、自動的に、自然に、無意識のうちに活動する一つの法則となって、わたしたちを罪と死の法則から解放しています。この事は、神のエコノミーにおける最大の発見、さらには最大の回復の一つです——ローマ7:18-23. 8:2。
  2. わたしたちは、命がわたしたちの存在の中へと分与されることを享受して、命の霊の法則の働きによって、神のエコノミーを完成します——エレミヤ31:33. ヘブル8:10. ローマ8:2-3, 10, 6, 11。
  3. ローマ第8章の命の霊の法則を享受することは、わたしたちをローマ第12章のキリストのからだの実際の中へともたらしめます。わたしたちがからだの中で、またからだのために生きる時、この法則はわたしたちの内側で活動します——ローマ8:2, 28-29. 12:1-2, 11. ペリピ1:19。
- E. 神はご自身の神聖な命をわたしたちの中へと分け与えることによって、この最高の命の最高の法則(単数——エレミヤ31:33)を、わたしたちの霊の中へと入れます。この法則はわたしたちの霊から、わたしたちの内側の各部分の中へと、すなわち、わたしたちの思い、感情、意志の中へと拡大し、いくつかの法則(複数——ヘブル8:10)となります：
  1. この法則がわたしたちの中で拡大することは、分け与えることです(ローマ8:10, 6)。分け与えることは、書き記すことです(Ⅱコリント3:3)。主は拡大し、分け与え、書き記しているとき、アダムの古い要素をわた

したちから減少させ、キリストの新しい要素をわたしたちの中へと加えて、わたしたちのために命の造り変えを新陳代謝的に成し遂げます——IIコリント 3:18。

2. わたしたちの内側で命の法則が働き、拡大することによって、神はわたしたちを、命、性質、表現において彼と同じにします。わたしたちは、命の法則の働きによって、神の長子のかたちに同形化されます——ローマ 8:2, 29。
- F. わたしたちが主に触れ、主と接触し続けているとき、命の法則、すなわち、命の霊の法則は自動的に、自然に、何の努力も必要とせずに働きます——ピリピ 2:12-13. ローマ 8:2, 4, 6, 13-16, 23. Iテサロニケ 5:16-18:
1. わたしたちは自分自身の苦闘と努力をやめなければなりません——ガラテヤ 2:20 前半. 参照、ローマ 7:15-20:
    - a. 罪が法則であること、わたしたちの意志が決してこの法則に打ち勝つことができないことを、わたしたちが見たことがないなら、ローマ第7章の罫に陥っており、決してローマ第8章に到達しません。
    - b. パウロは何度も欲しましたが、その結果は失敗の繰り返しにすぎませんでした。人が行ない得る最上のことは、決意することです——ローマ 7:18。
    - c. 罪はわたしたちの内側で潜伏しているとき、単に罪ですが、わたしたちが善を行なおうと欲することによってわたしたちの中で起き上がるとき、「悪」となります——ローマ 7:21。
    - d. わたしたちは欲するのではなく、思いを霊に付け、霊にしたがって歩くべきです——ローマ 8:6, 4. ピリピ 2:13。
  2. わたしたちは祈りによって、また依存する霊を持ち、主を呼び求め、主の御言を祈り読みし、主との交わりを維持することによって、内住する、インストールされた(組み込まれた)、自動的な、内側で活動する命の霊の法則としての神と協力しなければなりません——ローマ 10:12-13. Iテサロニケ 5:17. エペソ 6:17-18:
    - a. キリストを命の法則として経験する秘訣は、彼の中にあることです。彼はわたしたちを力づけて、いっさいの事柄を行なわせます。彼の中にある秘訣は、わたしたちの霊の中にあることです——ピリピ 4:13, 23。
    - b. わたしたちは霊の中で生きるために、時間を費やして主を見つめ、祈ってイエスと交わり、彼の御顔の表情の中に浴し、彼の美しさで浸

透され、彼の卓越性を輝かし出さなければなりません——IIコリント 3:16, 18. 参照、マタイ 14:23。

G. 命の法則の機能は、命の成長を必要とします。なぜなら命の法則は、それが成長してはじめて機能するからです——マルコ 4:3, 14, 26-29:

1. 御座でのキリストのとりなしは、彼が復活の時にわたしたちの中へとまいた命の種を動機づけます——ヘブル 7:25. ローマ 8:34。
2. 長子がわたしたちのためにとりなしているのは、彼がわたしたちの霊の中へとまいた命が動機づけられて、成長し、発展し、わたしたちの内側のすべての部分に浸透するためです。ついには、栄光が現されて引き上げられた彼の存在をもって、わたしたちは完全に飽和されるようになります。
3. 神聖な命がわたしたちの中で成長するとき、命の法則は機能して、わたしたちを神の長子としてのキリストのかたちに形成し、同形化します。それは、わたしたちがキリストの団体の表現となるためです。命の法則はわたしたちを、間違ったことを行なわないように規制するものではありません。それは規制して命の形状を得させます——ローマ 8:2, 29:
  - a. 内住する原型、すなわち、神の長子は、命の法則としてわたしたちの中で自動的に働いて、わたしたちを彼のかたちに同形化、すなわち、「息子化」します。主は力を尽くして働いて、わたしたち一人一人を長子と同じにしつつあります。
  - b. 神がこの原型を大量に複製する方法は、彼の生ける原型、すなわち、長子をわたしたちの全存在の中へと造り込むことです。もしわたしたちがこのすばらしい原型に協力し、開くなら、彼はわたしたちの霊から外に向かってわたしたちの魂の中へと拡大します。
  - c. 長子は原型、標準モデルであり、それは神の多くの子たちを大量に複製するためです。彼らは長子の多くの兄弟たちであり、新しい人としての彼のからだを構成して、標準モデルである神の長子の団体の複製また表現となります——ローマ 8:29。
4. 命の法則はおもに、何をすべきでないかをわたしたちに告げるという消極的な意味で機能するものではありません。むしろ、命が成長するとき、命の法則は、わたしたちを形成する、すなわち、キリストのかたちに同形化するという積極的な意味で機能します。わたしたちはみな命の法則の機能を通して、神の円熟した子たちとなり、神は彼の宇宙的な、団体の表現を得ます。

IV. 「わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる」——ヘブル 8:10.

エレミヤ 31:33 後半：

- A. 神がわたしたちの神となるとは、神がわたしたちの嗣業<sup>しぎょう</sup>であることを意味します——エペソ 1:14：
1. 神は人を、神を内容とする器として創造しました(創 1:26-27. ローマ 9:23-24)。ですから、神は人の所有であり、それは器の内容が器の所有であるのと同じです。
  2. 神はわたしたちの嗣業であるだけでなく、わたしたちの享受のためのわたしたちの杯の分け前(詩 16:5)でもあります。救われるとは、神へと戻り、神をわたしたちの所有として新たに享受することです。それはヨベルにおいて人が自分の所有地へと帰ることによって表徴されています(レビ 25:10. ルカ 4:18-19. 15:17-24. 使徒 26:18. コロサイ 1:12)。
  3. 神がわたしたちにその霊を与えるのは、わたしたちの嗣業の保証としてだけでなく、わたしたちが神から受け継ぐものの前味わいとしてでもあります(Ⅱコリント 1:22)。その霊の担保は少しずつわたしたちの中へと神を増し加え、ついにはわたしたちは永遠の中へと入り、神をわたしたちの満ち満ちた享受として持つようになります。
- B. わたしたちが神の民となるとは、わたしたちが神の嗣業であることを意味します——エペソ 1:11, 14, 18. 3:21：
1. わたしたちは、自分の享受のために神をわたしたちの嗣業として受け継ぐだけでなく(エペソ 1:14)、神の享受のために神の嗣業ともなります(11節)。
  2. 神がわたしたちの中へと造り込まれることによって、わたしたちは神の嗣業へと構成されつつあります。これは造り変えであり、主観的な聖別でもあります。
  3. 神はご自身の聖霊をわたしたちの中へと証印として入れ(エペソ 1:13)、わたしたちを印づけました。この事は、わたしたちが神に属することを示しています。この証印は生きたものであり、わたしたちの内側で働いて、神の神聖な要素をもってわたしたちに浸透し、わたしたちを造り変え、ついにはわたしたちの体を贖います。
  4. 究極的には、神と人の相互の嗣業は、永遠にわたって聖徒たちの中で神の嗣業となります(エペソ 1:18)。この事は、普遍的に、永遠にわたって、極みに至るまで、神の永遠の表現となります(啓 21:11)。

V. 「彼らはそれぞれ同じ国民に、またそれぞれ兄弟に教えて、『主を知れ』と言

うことは決してない。それは、小さな者から大きな者まで、彼らがみな、わたしを知るからである」——ヘブル 8:11 . エレミヤ 31:34 前半 :

- A. 命の機能はわたしたちに、内側の命の方法で神を知ることができるようにします。わたしたちは主観的に、内側から、命の感覚によって、神を知ることができます。命の感覚は、わたしたちの内側にある神聖な命の感覚、知覚です——ローマ 8:6 . エペソ 4:18-19 . ピリピ 3:10 前半 :
1. 命の感覚は、神聖な命(エペソ 4:18)、命の法則(ローマ 8:2 . ヘブル 8:10)、その霊の油塗り( I ヨハネ 2:27)からやって来ます。
  2. 命の感覚は、消極面では死の感覚であり、積極面では命と平安の感覚です——ローマ 8:6 . イザヤ 26:3。
  3. わたしたちは命の感覚にしたがって命の原則の中で生きるべきであり、正しいか間違っているかの原則、すなわち死の原則にしたがって生きるべきではありません。
  4. この事は、善悪知識の木の原則にしたがってではなく、命の木の原則にしたがって生きることです——創 2:9。
  5. 命の感覚は、わたしたちが天然の命の中で生きているか、あるいは神聖な命の中で生きているかをわたしたちに知らせ、またわたしたちが肉の中で生きているか、あるいは霊の中で生きているかをわたしたちに知らせます。
- B. 「神に仕え、神のために働くために、クリスチャンは善悪知識の木から離れ続けることを学ばなければなりません。……命の木に触れる者だけが、自分の生活と働きが新エルサレムの中にとどまり続けるのを見ます」(ウオッチマン・ニーが務めを再開した時期のメッセージ記録(上)、第 16 章)。
- VI. 究極的に、わたしたちが、内住する霊を神聖な命の自動的な法則、すなわち、命の霊の法則として享受することは、キリストのからだの中にあり、キリストのからだのためであって、この享受には目標があります。それは、わたしたちを神格においてではなく、命、性質、表現において神とし、神の永遠のエコノミーの目標、すなわち新エルサレムを完成することです——ローマ 8:2 , 28-29 . 12:1-2 . 11:36 . 16:27 . ピリピ 1:19 . 参照、ガラテヤ 4:26-28 , 31。